

場所	分類	被ばく低減対策好事例集	
原子炉建屋内 タービン建屋内 R ZONE Y ZONE G ZONE その他()	RB TB R Y G Z	RB 5	1 時間 2 距離 3 遮へい 4 線源の除去 ⑤ 遠隔、吐化 6 汚染拡大防止 7 その他
			番号 29-02-01
内 容	リモートモニタリングシステムの採用		
作業部位	原子炉建屋を中心とした高線量率エリア		
概 略	米国製の遠隔監視システムを採用し、高線量率エリアに立ち入らなくても作業者の管理・監視を行うことができるようになった。		
評価(定性・定量)	効果	対策前 被ばく線量(mSv) 人工数(人日)	対策後 相対値1.0 相対値0.87 --
事例詳細			
対策前	被ばく低減は、工学的対策→管理的対策の順に行なうことが求められているが、管理的対策ツールが導入されることは従来少なかった。		
対策内容	米国製モニタリングシステムを導入し、元方事業者にそのシステムを貸与することで管理・監視業務の円滑化・省力化による被ばく低減を図ることが可能となった。		
■「IPカメラ」「ヘッドセット」「リモート監視用APD」で構成			
リモート監視用APD	本体	収納時 縦横600mm × 高さ1300mm 展開時 幅1300~3000mm × 高さ1600mm	
無線	有線	有線	
無線		無線	